

(図103)米国におけるランドバンクの取組(概要)

○米国では、主に人口が大幅に減少している中西部の工業地帯の地域中心都市において、ランドバンク(※1)が差押不動産、空き家・空き地対策、人口減少地区の安定化に取り組んでいる。

○ランドバンクの基本的使命の一つは多様な販売・利用ツールを用いて「未納物件を納税物件に戻すこと」である。

○特に、2000年代に入ってミシガン州ジェネシー郡(中心都市はプリント市)に登場したGCLBA(Genesee County Land Bank Authority)は、主体的かつ多角的な事業展開をし、他地域から、ランドバンクのモデルとされている。

※1 「空き地、放棄地、差押不動産を利用物件に転換することに特化した行政機関」と定義。ミシガン州とオハイオ州を中心に米国に少なくとも88のランドバンクが存在(2013年当初時点)。組織形態として、①行政の外郭機関、②公的な使命を担う民間非営利組織、③行政内部のプログラム等がある。

< ミシガン州ジェネシー郡におけるGCLBAの場合 >

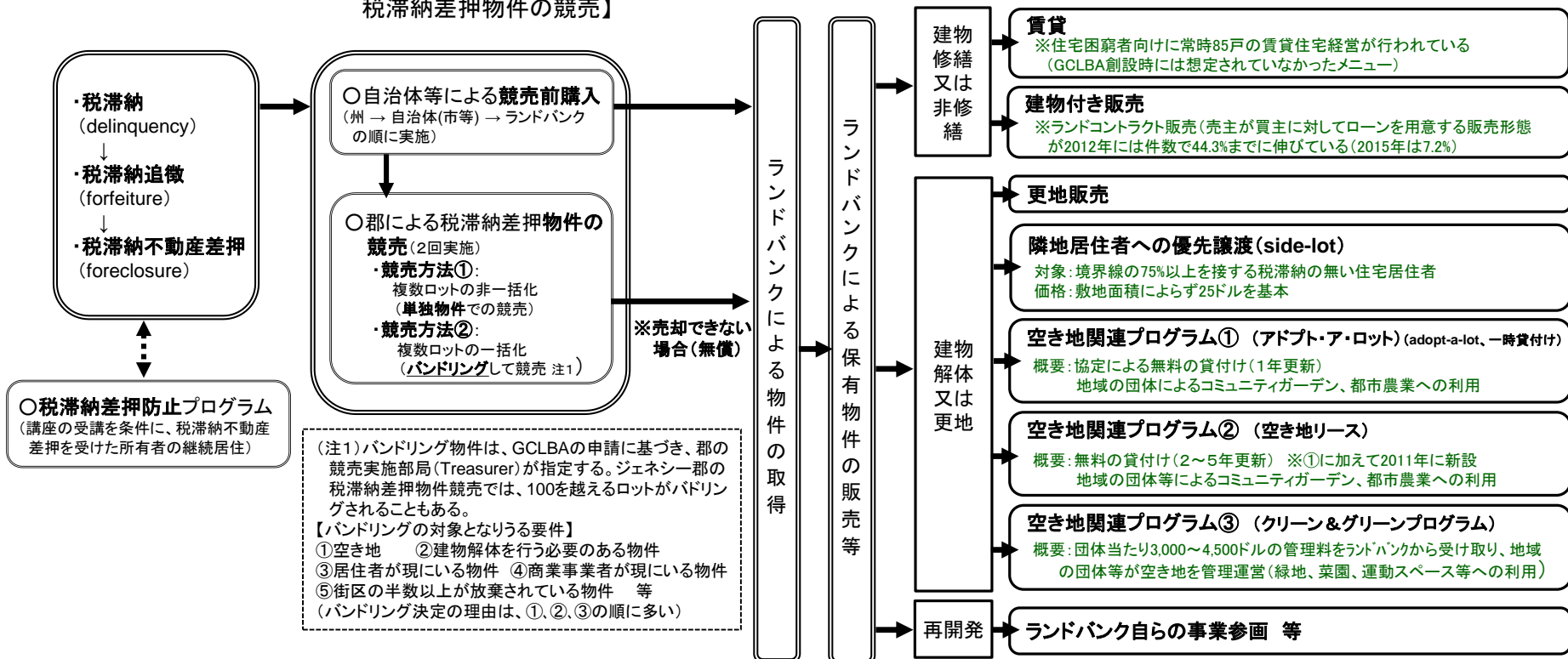
1,2年度目

3年度目

【税滞納～税滞納差押】

【税滞納差押～
税滞納差押物件の競売】

【物件取得～物件の販売・利用】



(出典) 「米国ミシガン州ジェネシー郡におけるランドバンクの担う差押不動産、空き家・空き地対策の研究」 (藤井、大方、小泉: 都市計画学科 都市計画論文集 vol.148 No3 2013年10月) を基に、国土交通省作成